



望ましい姿を描き、実現するための、愚直な対話と練習

ではこの青少年の問題、どうすれば解決できるのか。コミュニティやまちづくりの視点から考えてみます。良いまち、良いコミュニティを築いていくには、「自分たちはどんな状態を望ましいと思うのか」、そしてどうすれば「その望ましさを実現するために最適な関係性を築けるか」を考える必要があります。

もちろん、それは簡単なことではありません。どんな状態が自分にとって望ましいのか、そしてそれを実現するためにどんな関係性を誰とどう築いていけばよいのか、即答できる人は、大人であっても多くないでしょう。大人であってもそうなのに、経験の量や、知人友人の選択肢が大人より圧倒的に少ない青少年は、より一層難しいでしょう。

ではどうすればいいのか。気恥ずかしいくらい「愚直な正論」ですが、多分これしかありません。

いろんな経験をして勉強する。

いろんな所でいろんな他人と対話する。

そうすることで、自分にとっての「望ましい姿」を描き出し、それを実現できる時を、場所を、人を探し、良い関係を作る練習をする。

これは最初からできるものではありません。何度もチャレンジしては、やり直し、だんだん上手になっていく。その積み重ねしかないのです、きっと。

もし他に近道があれば私が知りたいくらいです。この「愚直な正論」の大切さは、青少年に限らず、私のような「大人」と分類されるような人間でもきっと同じだからです。

こういう背景から、私たちはパネル・ディスカッションのタイトルを「わたしにとってのコミュニティ～見つけよう！私の大切な場所(もの)」としました。その上で、実際に自らコミュニティを作っている実践者の方々をパネリストとしてそれぞれの経験談を語っていただく時間を持った次第です。それぞれ、自身の望ましいあり方を求め、コミュニティを築く試行錯誤の経験を語っていただき、大変示唆に富むものになりました。

青少年の姿から学ぶ、大人の自戒

愚直な対話と練習を妨げてはいけない

以上のパネル・ディスカッションの総括を踏まえ、最後に2つ提言を述べて筆を置きたいと思います。第1に、私自身を含む大人へ向けた自戒。そして第2に、何より本シンポジウムの主役である青少年の皆さんへ向けたメッセージです。

まず、私を含む大人へ向けた自戒を述べます。私は、前述のような「愚直な正論」は、人がより善く生きるために必要不可欠なものと考えます。むしろ問題があるとするならば、その「愚直な正論」の営みを妨げる場合でしょう。

例えば、対話しようにも相手が話を聞いてくれない不寛容さとか、練習したくても、1回失敗したら集団や就職活動の機会から排除されたり、気持ちがち直らなくなるくらい傷つけられたりするなどの不可逆なダメージを負わされる仕組みとか、練習する余裕の不足とか、何をどう練習すればいいのかわからない情報の不足といったことです。そういった要因は、「愚直な正論」を通りにくくします。

これは青少年というより、私たち大人の問題かもしれません。他人の対話を受け入れられたらどうか。練習を許容する余裕を持たせたらどうか。それどころか失敗を許さなかったり、未熟ゆえの拙い下手を冷淡に扱ったりしては来なかったか。そういう状況を当然だと見なすような「正論」ならぬ「曲論」をまかり通しては来なかったか。

青少年がこの大人の曲論を鋭く見抜いた結果、対話や練習ができず、望ましくない状態にいつまでも追いやられているのであるとするならば、我々大人こそ、その青少年の姿から「愚直な正論」の重要性を気付かされねばならないといえます。

青少年へのメッセージ

いろんな人と対話し、練習しよう

そして最後に、青少年の皆さん(あるいは今もなお悩み続ける、私も含めた大人の皆さん)へ向けたメッセージです。

あなたが、望ましさを上手に描きたいのに描けないとか、望ましさを実現する関係性を上手に築きたいのに築けないといったことは、なんらおかしいことではないと私は考えます。それは本来難しいことなのです。だから、そのことに怯えないでほしいと思います。

その上で、いろんなところに出かけていろんな人と対話し、他人との関係をデザインする練習を繰り返しましょう。その積み重ねが、次の一歩を生み出すはずですよ。

そしてそれは決して、ただの辛く苦しい道のりではありません。パネリストの方々の経験も示唆するように、その道のりは、他ならぬあなた自身の人生をより望ましいものへとしていくための、未知と未踏の世界へ踏み出すワクワクとした冒険の旅路であるはずだから。